



「弘前藩庁日記ひろひよみ Vol.2 1741年～1868年」

福眞吉美 著

北方新社, 2014年7月

CD-ROM, 3000円(本体価格)

ISBN 978-4-8929-7204-1

江戸時代の古日記天候記録を用いて、気象観測開始前の気候の状態を復元することは歴史気候学研究者によって試みられてきたが、古日記天候記録を活用する際に、いかにして多くの古文書史料を効率的に解説・収集するか、という問題がある。特に、日本では歴史気候学研究者の数が少なく、個々の研究者で解説できる史料の範囲は限られている。このような状況の中、「弘前藩庁日記ひろひよみ Vol.1 1661年～1740年」に続く、本書の刊行によって「弘前藩庁日記」の天候と災害の記録が電子ファイル形式で公開されたことは大変、画期的である。

本書では、江戸時代に弘前藩で記録された「弘前藩庁日記」のうち、1741年から1868年までの日々の天気、自然災害と災害による被害、食料の値段などが一覧表として、MS-ExcelとPDF形式でCD-ROMに収録されている。一覧表では日付の直後に日々の天気が記載され、さらに自然災害や、災害による被害、米の値段などが記載されている。

本書に集録されているファイルは下記の通りである。

- ・解説 (MS-Word, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記1741～1780 (MS-Excel, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記1781～1820 (MS-Excel, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記1821～1860 (MS-Excel, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記1861～1868 (MS-Excel, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記 (訂正) 1661～1700 (MS-Excel, PDF 形式)
- ・弘前藩庁日記 (訂正) 1701～1740 (MS-Excel, PDF 形式)

上記のうち、MS-Excel形式のファイルとPDF形式のファイルは内容が同一であるが、著者によれば、その用途は若干異なる。PDF形式のファイルはデータが簡単には破壊されないというメリットがあり、目

視による検索・印刷等の利用に適している。一方、MS-Excel形式ファイルは検索範囲を指定して特定の天気の出現日を検索する場合などに利用しやすい。

「解説」では、著者が「弘前藩庁日記」の歴史的な位置づけ、記載内容、日記の執筆者と読者、日記における日付の正確性などを詳細に検討し、その内容を本書の編集方針とともにまとめている。したがって、歴史学や歴史気候学に馴染みのない読者でも「解説」を参照すれば、「弘前藩庁日記」の特徴を容易に理解できる。

本書の特徴のひとつとして、毎日の天気記述を原文通りに記載し、電子化していることが挙げられる。これまでも、古日記から天候記録を抽出して、データベース化することは試みられてきた。しかし、多くの場合、公開されている天候記録は何らかの基準にもとづいてコード化されており、本書のように毎日の天気記録を原文通りに電子化すること行われていない。著者も指摘しているように、「気候変動に関して、江戸時代から現代までの雷日数がどのように変わっているか・季節ごとにはどうか」というような問題を実証的に解明するためには、1日の間での天気の時間変化や、夜間の天気など原文に記載されている詳細な情報を活用する必要がある。そのためにも、天候記録を原本に忠実に電子ファイル形式で公開したことの意義は大きい。

自然災害に関する記載については、飢饉対応として御救い米を出した人数、災害による死者数、火災による焼失軒数などが可能な限り定量的に記載されている。もちろん、著者が指摘しているように、数値の信頼性については注意が必要であるが、これらの記録は気象災害の復元や、自然災害に対する社会の対応を分析する上でも役立つものである。

古日記天候記録を気候復元研究に用いる場合、古日記を所蔵している図書館や史料館に出かけて、記録を写すことが一般的である。現在では、ノートPCの持ち込みが許可されていれば、現地で直接、電子ファイルに入力することができるが、ノートPCの利用が一般的でない時代に手書きで筆写された記録については、再度、電子ファイルに入力する手間がかかる。本書のような形で、原文に忠実な天候記録が電子データとして公開されれば、重複した入力作業を行う必要がなくなり、研究を効率的に進めることができる。一般に、古日記天候記録の解説と収集には多大な労力と時間を要するため、研究対象とする特定の年代や季節に

期間を限定して解読するが多い。しかし、本書では、対象期間について全季節の記録が解読されており、本書の完成に至るまでに大変な労力を要したことが想像できる。

「弘前藩庁日記」の他にも、日本各地には歴史時代の天候や災害を記した膨大な古日記・古文書類が残されている。本書の前編「弘前藩庁日記ひろひよみ

Vol. 1」と合わせて、延べ200年以上にわたる天候と災害の記録を電子化した著者の多大な努力に敬意を表するとともに、本書の刊行を契機として歴史時代の気候と災害に関する資料のデジタル化と公開が一層進展することを期待したい。

(防災科学技術研究所 平野淳平)